

令和元年度 第2回 三重県総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日 時 令和元年6月27日(木) 10:00～11:45
- 2 場 所 三重県庁講堂棟第131・132会議室
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員4名
- 4 議 題
 - ・三重県教育施策大綱に基づく取組の振り返りについて
 - ・次期「三重県教育施策大綱」基本方針（案）について
 - ・いじめの防止について
- 5 主な意見 ○：教育長・教育委員、●：知事

<三重県教育施策大綱に基づく取組の振り返りについて>

- 教育の原点である家庭教育の中で、妊娠期の産前産後におけるサポートの取組は大切であり、次期の大綱ではもう少ししっかり記述してほしい。児童虐待の防止にもつながると考える。
- 発達障がいの子どもたちのケアに関しては、乳幼児の時期から学齢期に向けての橋渡しの部分が大事であるので、次期の大綱ではしっかり記述してほしい。
- 若者の県内定着について、高校と大学の連帯した取組をより展開させていけるとよい。
- 例えば、大学の入学定員が社会的な事情で増減することもあり、こうした外部要因により県外への進学者が増加するなどの結果に表れることがある。成果と課題については、これまでの取組の効果と外部要因を分けて考えることも必要ではないか。
- 取組内容だけでなく、取り組んだ成果がわかるように記述した方がわかりやすい。
- 課題として、学校と地域の連携についての記述が多い。以前は、学校が地域づくりの核となっていたが、今、学校がその役割を果たせていないのではないか。地域における学校の役割・位置づけが明確になっていない。
- 地域への定着については、子どもの頃から三重を愛する心を育むことが大切である。
- 発達障がいの子どもたちの「CLM(Check List in Mie)」と「パーソナルカルテ」との連動が重要である。この件だけに限らず部局横断した連携が必要である。

- 事業の効果測定にあたっては、取組の成果と外部要因を分けて考えてもよいが、外部要因があるからといって、行政だけでできることに取り組むのではなく、様々な人や主体を巻き込んで取り組んでいくことが大事である。

<次期「三重県教育施策大綱」基本方針（案）について>

- 子どもたちが、自ら主体的・積極的に考え学んでいく（アクティブ・ラーニング）ような教育の視点が入っていない。
- 基本方針「新しい時代を『生き抜いていく力』の育成」について、自立と共生の力だけではなく、創造し、工夫し、共に創りあげていくような力の育成を入れてはどうか。
- ふるさとに関する教育についての記述が少ないので「この地で生き抜いていく」といった表現を入れてはどうか。
- 成果が出ていないとすべきことが増えてしまう。「削ぐ」ことも大事。「今することは何か」を意識する必要がある。十分議論し、成果につなげていくべき。
- 県民に分かりやすく表現することも大事。1ページの「イノベーションの源泉」はイメージしにくいのではないか。
- 特別支援教育について、三重県は全国的に進んでいる。県が課題として認識していることだけではなく、成果となったことについても盛り込めるとよい。
- アクティブ・ラーニングの視点について、失敗しても挑戦する、壁があっても多様な人と話し合い、自分達で考えながら乗り越えていくための取組について、しっかり記述したい。
- 子どもたち自身が主体的に学ぶことは極めて大事であるので、次期の大綱に反映していく。
- 「この地（三重県）で生き抜いていく」という主旨も、大変良い事である。この地でずっとということだけではなく、一度、大学入学等で県外に出て、また三重県に戻ってくることも含めて、この地で生き抜いていってほしい。

<いじめの防止について>

- いじめは、認知件数が少ないことが問題であり、軽微なものでも丁寧に拾って、解消率を高めることが大切である。
県民総がかりでの取組はとても良い。学校との関わりを積極的に持とうとしない保護者への啓発を進めてほしい。
- 保護者への啓発も含め、社会総がかりの取組は、いじめ防止応援サポーターの増加を図るなど、事業者を巻き込むとよい。

- 学校への相談をためらう保護者がいることも考えられることから、学校以外の相談窓口があることも大切である。保護者宛て一斉送信メールなどで、保護者でも相談できる窓口を周知してほしい。
- いじめは、短期的には丁寧な対応が必要である。また、子どもの「いじめ」と、大人の「ハラスメント」は同根の問題である。

長期的な視点に立って、三重県全体で「いじめ」と「ハラスメント」をどう考えていくかが大切である。
- いじめの認知件数が平成28年から減少していることから、些細なことでも報告することが大切であることを、改めて学校に周知していく必要がある。事業者を巻き込む取組は、引き続き進めていきたい。
- いじめは認知件数が決定的に重要であると認識している。全国的に認知件数が増加する中、三重県の小学校の件数が減少するとは考えにくい。軽微なことでも認知することの大切さについては、人事異動等で人が替わっても引き継がれるようにすべきであり、遺漏なく引き継がれる仕組みをつくってほしい。

事業者との協働は重要であり、地域で活動している団体などへの声かけから始めるなど、戦略的に展開してほしい。

情報ツールは、相手に確実に伝わるよう複数用意しておくことが大事である。一斉送信メールを活用した情報発信は難しくないと思うので、速やかに取り組むように。

以上